

第17回区民車座集会意見交換内容

※ 読みやすさ等のため、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

- 1 開催日時 平成27年10月17日（土） 12時から12時45分
- 2 場所 幸区役所ロビーハナミズキ
- 3 参加者数 参加者6名、傍聴者23名

（1）市長挨拶

今日は区民車座集会にお集まりいただき、ありがとうございます。これが3巡目になります。毎月各区で行ってございまして、幸区でも3巡目ということになります。2巡目までは大体同じパターンでやっていた。ひとり1分30秒で話していただいて、お答えしてということで、定員30名ということでやってきたんですが、3巡目は各区色々なパターンでやってみようということで、先日麻生区でやった時は、テーマを設定して町内会の皆様から取組を伺って意見交換させていただきました。

今回はイベントに併せて行なうということで、幸区民祭で行うという形でやらせていただいています。今日もテーマを設けずということで、比較的長い時間でやり取りができるような形にしておりますので、忌憚のない御意見をいただければと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

（2）意見交換

飯田さん】よろしくお願ひします。飯田と申します。昨年度から知的肢体併置校になった市立田島支援学校の肢体部についてです。3年以内の転校が原則ということで、私の子供は中原から初年度に転校しました。学校行事などは、もともと知的の学校なので、ちょっときつところはありますが、担任の先生と学校の配慮もあり、元気に過ごしております。教育委員会の方々にもよく話を聞いていただき、意見交換をさせていただいています。ただ、私の子には常時医療ケアはないんですが、今後はかなり重度のお子さんが入ってくる予定もありますので、3年で県立から完全転校というわりには、医療ケアのシステムづくりが遅いように感じてございまして、転校を考えていた医療ケアのお子さんが今年断念せざるを得なかったという例もあります。

そこで要望が3つありまして、医療的ケアの専門部会を活用して、教育委員会の方々などの力をお借りして、田島としての医療的ケアの実施要領の完成。あと学校が小中と高で2校に分かれているということで、特殊な環境によって、看護師が1名、1名なんですが、不在の時があるということで、その問題解決をしていただきたいということ。あともう一つは、私達は入学前から校医の先生、あとはこの医療的ケアの専門部会に出ている校医の先生も同じくなんですが、小児神経医もしくは小児科医を入れてくださいということをずっと要望し

ているんですが、なかなかちょっとそれは無理だということは教育委員会のほうから言われています。でしたらアドバイザー的な存在として、もっと肢体不自由児に詳しい先生を入れてほしいという希望があります。以上です。

市長】ありがとうございました。ご案内のとおり、今、川崎市と神奈川県で協議して、川崎市を南北中という形でなるべくご自宅に近い学校に通っていただけるように環境を整えようということで、川崎区、幸区にお住まいの方であれば田島のほうに、今まで県立中原に肢体不自由児の皆さんに行っていたところを、なるべくご自宅に近いところということでやっています。飯田さんからご紹介いただいたように、3年間の経過措置の中で、しっかりと医療的ケアができるような環境を整えていこうということでやらせていただいています。

校医の話とか、医療的ケアができる教員の配置だとか、それからケアをちゃんとコーディネートする人を立てて、その中で一人一人のお子さんの特徴、特性に併せた形でケアができるようにということで整えています。飯田さんがおっしゃるように、それぞれの方にそれぞれの特性があるので、必ずしもばっちり合っているかという、まだまだ不十分なことはたくさんあると思います。そういう課題というのはたくさん私のところにもお話をいただいております。人員的に配置するのがものすごく難しいとか、色々な障害があるんですが、なるべく子供さんが良い環境で教育を受けられるように努力していきたいと思っています。

今いただいた3つの個別の御要望については、かなり個別の話になってくるので、またあらためての回答でもよろしいでしょうか。飯田さんの今ご紹介いただいたお子さんは、お知り合いの方なんですか。

飯田さん】そうですね、今中原に通っている方で、3年以内ということであと残すところ1年半なんです。転校を考えてはいたんですが、今年の学校説明会に行ってみたら、やはりちょっと不安であるということで、今年は転校を見送るということでした。あとはもう一人、中原のほうでは、学校までの送迎ができるのであれば、川崎区からでも、バスは通らないけれどもいいんじゃないかという判断が最近出たようで、もう転校はしないということを決めていらっしゃる方もいます。

市長】なるほど、そういうケースもあるでしょうね。これまで肢体不自由児の方が移動されるときにはものすごい距離を走って、1時間半くらいかけて学校に通うというケースもあったので、そういうことをなるべく軽減するという意味で、なるべく近くの学校でということでもありますけれども。おっしゃるように、個別のケースに関しては丁寧にご相談に応じて、なるべく安心して地域の学校に通えるような取組を、これからも頑張っていきたいと思いません。

山田さん】山田と申します。去年も参加させていただきました。今回はJ R川崎駅の自由通路の件なんです。北側のほうの自由通路は今工事中です。これはもうすぐ完成すると思う

んですけれども、今回質問するのは、前に議会だよりの中に、JRの南側、ミューザ側にも作るということが掲載されていました。その後の計画案、素案ができているかどうか、そしていつ頃着工に入るか確認したいと思うのですが、よろしくお願いします。

市長】今ご紹介いただいたように、北口の自由通路については今工事をやっているところでありまして、29年度中には供用開始ということになっていきますので、事故があつて若干、半年くらい工事が遅れているということはあるんですが、少し遅れは出ているけれども、29年度中には供用開始できるようにということで工事を進めています。

それと、御紹介のあった南口はまだ計画は立っておりません。商工会議所とか地元の商店街の皆様からすると、南口はもっと回遊性を高めた方がいいんじゃないかということで、御要望はいただいております。ただ、今北口を建設している最中ですので、その状況を見ながら考えたいというのがJRの立場でありますし、川崎市としても南口の回遊性は大事だと思っておりますが、やはり北口の話がちゃんとできていないとそのあとに繋げないことですので、まだ市として計画を持っているとか、JRが計画を持っているということではありません。ですからもう少し先の話になると思います。

山田さん】音楽のまちかわさきということで、今現在進行形ですけれども、これはぜひ作ってほしいと思います。

市長】音楽のまちづくりをこのまま進めてほしいということですね。ミューザかわさきシンフォニーホールができて、今年で11年目になります。それに併せて音楽のまちづくりもやってきましたので、10年超えて11年目に入って、だいぶ音楽のまちづくりというのが定着してきたと思いますので、さらに広がりを見せて取り組んで行きたいと思っております。ちなみに今年は、川崎ジャズという新しいジャズフェスティバルを開催しますので、川崎の南から北部に至るまで、来月はジャズ一色に染まることになるんじゃないかなと思います。ぜひ見に来てください。

上杉さん】上杉と申します。ここに書いてあるとおり、プレミアム商品券のことなのですが、財源は国からだと思っています。ですが、何のためのプレミアム商品券なのかが定かでない。消費を喚起するためだけなのかなという感じです。

なぜかという、例えばうちの家族も実はこれが当たったんですが、ラゾーナで使うとか、そういうふうを考えるんですよ。でも僕はそれは意味がないかと、地元の商店街で買っただきたい、地元の商店街もそれで活性化できるようにしたい。そのためには2割じゃなくて、財源で2割を確保していると思うんですが、その2割を商店街にメリットがあるようにしたいと考えています。そうするとやはり地元の商店街を愛する、50%とここには書いてありますが、極端なことで、例えばスーパーマーケットでビールを買うと、それが300円だとすると普通の商店では350円かもしれない、それをプレミアム商品券で買えば、300円以下、例えば250円とかで買えるならまず買うわけです。地元の商店街で。そうする

と、地元が潤うのではないかと考えています。

それから、ポスティングをしたんですが、その財源は国から出ているのですか、それとも幸区、川崎市で出したのかわかりません。

それから、追加が出て今日また販売をするらしいのですが、これが幸区ではないんです。わざわざどこかへ行ってならばなければならないのはおかしいのではないかと考えています。よろしくをお願いします。

市長】ありがとうございます。プレミアム商品券は先程上杉さんからご紹介があったように、100%国費の財源になっています。それをどういう手法でやろうかというのは、実は川崎市が、行政が勝手に決めているという形ではなくて、実行委員会形式という形で、それこそ川崎市の商店街連合会の皆さん、商工会議所、観光協会、地元の金融機関、こういったところに集まっていたいて、その中でプレミアム率は何%にしましょうかとか、取扱店舗はどのようにしましょうかとか、その中で議論していただいたんです。そういう意味では、商店街の皆様の意向というのはかなり入っていると思っています。それを大型店だけにしようか、あるいは大型店を除こうかとか、対象範囲も実行委員会の中で決めていただいたということです。行政が何%だとか、こうだと決めているわけではありません。

それで、おそらくこのプレミアム商品券というのは今年限りだと思います。ずっと続くことは考えにくいと思いますが、地元の商店街にもなるべく使ってもらいたいと思うのですが、商店街がこの1年の1回限りで消費喚起というのではなくて、商店街を活性化させる起爆剤のようなものに使っていただけるとありがたいということで、商店街連合会の皆さんにも私から少しお願いをさせていただいています。

それから、今日なぜ二次販売ではないですが、そうなっているかということ、抽選に当たった方が引き取りに来られなかった方が5%くらいいらっしゃるんですね。この5%の余ったのをもう一回販売しますよという形で今日販売をさせていただいて、主要なターミナル駅ですね、川崎駅、小杉、溝ノ口、新百合ヶ丘と、こういったところで販売させていただいて、今日あつという間に完売になったと聞いておりますが、そういったことでターミナル駅を中心にやらせていただきました。それともう一つ、商店街の所で販売したらどうかというところで、ブレーメン通り商店街で販売したと聞いています。アクセスという意味で、各ターミナル駅で販売をさせていただいたということです。

それから、最後におっしゃっていたのがポスティングですね、あれは誰がお金を出したのかということですが、あれは国費の、プレミアム商品券の中からお金を出しているということです。

上杉さん】何だかわかったようなわからないような、あまり納得ができない。そういう余計なお金をかける必要があったのかということです。その、ポスティングというのは。そんなことをしなくても売れたはずですが。国費から販売経費を出しているということですか。

市長】そうです、そういうものを含んでいるということですね。

上杉さん】そうすると、含んでいるんだから、そうした余計なことをしなければもうちょっと出せたのではないですか。

市長】今回の商品券を販売するにあたって、実は今回初めてなんです、全国で。本当に売れるのか売れないのか、パーセンテージを何%にしたらよいのかというのは、各自治体相当な試行錯誤があったんです。結果論としてみれば、いい形で抽選も集まったということなんですが、最初は本当に集まるのかという心配があったことも事実です。結果的にみると売れたという感じなんです、結果論にしかならないかもしれませんが。

上杉さん】だけど20%といたらかなりですよ。値引き率20%というのはすごいですからね。それは絶対売れるに決まっているんですよ。僕はそう思います。

それから、地元の商店街が参加して決めたとおっしゃったんですが、その議事録か何かはあるんですか。

市長】もちろんあると思います。公に開かれている委員会ですので。あれはどうなっているのかな。確認して後ほどお伝えします。

坂井さん】坂井です、よろしくお願ひします。幸区に限らず、多摩川というのは1600年代には6年に1回、1900年代には3年に1回氾濫を起こしていました。ここは洪水に一番みまわれなければいけないところなんですけれども、たまたま今偶然にして助かっている。

そして、その川崎の中でも今ハザードマップというのが以前作られて以来、これですけれども、ご覧になった方いないと思うんですね、区民祭に来ないともらえないんですね。それもどこでもらえるかというのも、どこでもお知らせしていないんですね。窓口に行っても在庫が切れているということもありましたし、消防がこれを見たことがないと言った人もいますし、公共建築担当でこれを見たことがない人がいる。

この建物の地下には雨水の貯留管というものが入っていますけれども、それに追加して雨水の貯留槽というのがあります。でも後から作られた建物のために、思想が伝わっていないので、非常に規模が小さくて、何のために雨水貯留をするのかという理念がほとんど感じられないし、また建物を竣工した時の市の市政だよりの区役所の紹介でも、この機能についての説明は一切ありませんでした。

洪水についての市の認識は非常に甘いし、その部分について色々な矛盾が出てきています。洪水のハザードマップは手に入りにくいにも関わらず、津波ハザードマップのほうはどこにでも置いてある。そうすると、ここは津波は来ません、津波ハザードマップを見て安心してしまっ、備えないということが起こってしまう。どうしてこういうことが起きてしまうかという、川崎に140万人以上の市民が住んでいながら、そこに、水文地文の専門家が採用されていないからです。その問題は、箱根と温泉地学研究所の関係を見てもわかるように、非常に重要な問題ととらえていただきたいと思います。

市長】ご指摘ありがとうございます。今回の大雨による川の決壊から、多くの経験、教訓を得たのではないかと思います。本市もこの前の大雨災害の時に色々な不備がありました。その一つ一つを今検証して、駄目だったところを改善するようにやっているところです。

坂井さんおっしゃるように、先ほど区長とも話していたんですが、鶴見川は暴れ川だったということで、30年代、40年代、そして50年代後半にも決壊して、水が出てということを経験していると、実は50年代後半までそういうことが起こっているということ、あらためて私たちは自然の脅威というものを感じる必要がある。そういう意味で近年、これまで想定していた以上の雨量も観測されているので、今国のほうでも想像できる最大雨量というものをもとに、あらためて洪水被害マップを作り直すという話、マップを作り直すというのではないですね、想定を変えるという話も出ていますので、それに基づいて川崎市でも改訂していかなければいけないというふうに思っています。

ですから今、坂井さんから言われたような話、危機感をもっていかなければいけないと思っていますし、それを幅広く市民の皆様にご存知いただくことが大事ですから、色々なプログラムとか資料を用意しても、いかに市民の皆様にご知ってもらうかという努力、伝わる努力をしないと、結果的にどんなものを作っても意味がないということになりますので、その辺をしっかりとやっていきたいと思っています。

坂井さん】例えばアゼリアでも、浸水避難訓練に使われているのは津波ハザードマップなんです。大雨の想定についても非常に甘くて、多摩川が決壊するということは前提に入っていない訓練しかしていないんです。でも、実際にあそこには2mくらいの水は来るわけです。2mの水が来るというのは非常に大きいことですよ。

例えば、教育文化会館の前には津波避難ビルと書いてありますが、海拔1.6mくらいのところで、浸水想定0mと書いてあるんですね。それはなぜかという、津波ハザードマップだけを見て浸水想定0mと書いてあるんです。だけど、あそこは多摩川から2mの水が来るんです。

今回常総の大雨の時に、大洪水の時に、その日の早朝に地震が起きています。あれが常総の直下だったら液状化が起きていました。もし川崎にたくさん雨が降っていて、直下が起きたときに何人がそこに巻き込まれるのか、人口密度から言ったら常総の比ではありません。同じことをやはりアゼリアなどにも考えて、水は海から来るだけではないと、地震が起きて堤防が壊れたときに、どれだけの水が来るかということが全く想定されない避難訓練は逆に油断を生んで、例えば教育文化会館の真下に立ってにいた人が、0mと書いてあったから逃げなかったら、目の前に6階建てのビルがあるにも関わらずみんな死んでしまうわけです。まさに大川小学校の再現ですよ。

人が流されて喜ぶ人はいませんけれども、訴訟になったときに誰が受けて立つのか、あるいは大災害の直後で復旧に命がけで働かなければいけない時に訴訟をやっている暇はないはずなのに、それを今から予防しておかなければ、絶対に起こることなんです。そこを受け止める人がどこにいるのかということとずっと何年もやってきましたけれども、いまだに答

えはないんです。今やらないと手遅れになりますので、皆様の御活躍をお祈りします。

市長】どうもありがとうございました。とても大事な話で、津波なのか洪水なのか、両方併記していても感覚的にどっちなのかわからないということがあって、どういう周知の仕方が一番効果的なのかというのを考えていきたいと思います。

坂井さん】江戸川区の場合、荒川から来るか江戸川から来るかという問題があるんですが、水が流れてきて、多摩川か鶴見川かと聞いて答えてくれるわけではないですよ。ですからやはり、地震が起きたら堤防が壊れるというのは、中央防災会議でも平成26年の初めから地震洪水という定義ができましたので、市としても対策ができるはずですよ。よろしくお祈りします。

鈴木さん】鈴木と申します。よろしくお祈りいたします。伝えたいことが沢山あるので読ませていただきます。

まずひとつめ。戸手4丁目都市計画について。先程の坂井さんの発言と重なりますが、今年の2月に都市計画課と市長あてに申請書を出しました。結果は市長から「都市計画課へ」というものでした。都市計画課がまともに相手をしてくれないので出したのに、非常に残念でなりません。スーパー堤防に関しては坂井さんと同意見で、洪水、氾濫の被害などありますので大賛成です。もちろん鬼怒川の件もあります。しかし、高層建築物は必要ないと思います。何か建つのか本当に不明なんです。こちらとしては不安でなりません。また、8月15日の皆さん楽しみにされている大田区の花火大会なんですが、元々住んでいる住民の楽しみを奪わないでください。高層ビルによって花火が遮断されるんです。これはかなりひどいです。

あともう一つ。ヘリ飛行についてです。今年に入り、ヘリの飛行が異常に増えました。聞こえてから音が消えるまで1回と数えて、何回か数えましたけれども、10回以上観測する日が何度も続いています。地域に子供やお年寄りがいらっしやいます。負担になるので早急に対処いただければと思います。

あと、最後に放射能について。私、こちらの線量計を持っているんですが、こちらを持って幸区内、川崎市内いろいろ歩き回っているんですけども、幸区内で異常な数値を観測したところがありました。それについて市長さんの御意見を伺いたいです。(他の参加者「どこなのか?」) 店舗の前なので、今は控えさせていただきます。

市長】ご質問ありがとうございました。まず戸手4丁目のスーパー堤防のところの再開発の話ですけども、あそこは長年に亘ってスーパー堤防事業と再開発とを両方やっています。あそこは長年、住宅密集地が続いていて、その権利関係を整理していくということを長い時間かけてやりました。その計画の中で、その地区に住んでいらっしやった方が、その敷地内に移動していただいて共同住宅を建てていくという計画を作ってきていますので、景観が、花火が見えなくなるということもあるかもしれませんが、長年に亘って計画して

きたことですので、それはしっかり進めさせていただきたい、ご理解いただきたいと言えないです。スーパー堤防についてはご理解いただいているということですので、あそこはしっかりと整備して決壊しないようにしていかななくてはならないところですので、併せて整備していきたいと思っています。

それから、ヘリの回数が増えているということですが、増えているかどうかも含めて川崎市としては把握のしようがないんですね。法律を所管しているということもないですし、鈴木さんがおっしゃっていることを証明するという権限も持ち合わせていないですし、それについてはお答えしかねると思っています。なにか大変な騒音被害があると、また別の話になるのかもしれませんが。

それから、放射能については、3.11以降しばらくの期間、川崎市から線量計、ガイガーカウンターのようなものを市民の皆さんに貸し出す事業をやっていました。それで市民の方が測定して安心を持っていただいたと思いますが、幸区内で高い数値が出たというのは、今初めて聞いてびっくりしています。私どもも、川崎市内3か所、南中北部にモニタリングポストで線量を測って公開しています。その中では安全基準、安心していただける数値だと思っていますので、今の鈴木さんの発言に驚いていて何ともコメントのしようがないです。

鈴木さん】ひとつ調べたところなんですが、4丁目の都市計画のところも低くはない数値が出たんです。そこで人が集まるような施設を作ったら、やはり今後の子供の成長に関して非常に打撃があるのではないかと考えています。なので計画を見直していただければ幸いです。

市長】もし、そういうご指摘があったのならば、場所を言っていただければ区の方でも調査させていただきますので、是非よろしくお願いします。

鈴木さん】あと最後に、先程議事録のお話をされていたんですが、去年の11月にこちらの前庁舎で4丁目都市計画の意見を述べたんですけれども、その際発表された議事録を見て愕然としました。私の述べたことの半分も記載されていない。残念です。以上です。

武さん】武といいます、よろしくお願ひいたします。少子高齢化が日本でずっと問題になっています。それについて何かいい解決策がないかと思ひまして。昔は子沢山が当たり前だったと思うんですよ。一家族で4人5人兄弟というのが、何で可能だったかという、昔は三世代同居というのが当たり前でした。大きな家でみんなに住むのが当たり前だったから可能だったと思うんです。今、現実的にそれは難しいと思ひまして、それであれば地域社会で同じようなことをできたらいいんじゃないかと思ひまして。子育て世代からすると費用の問題や時間の問題、また教育の問題が重圧になってきて、もし子供を産みたいとなっても踏み込むことができないと思うんです。そうであれば、川崎市で施設を作っただいてサポートしていただひて、それがもしうまくいけば、日本全体の問題が解決するの

ではないかと思い提案してみました。

市長】ありがとうございました。おっしゃるように核家族化していますので、子育てに悩んでいるお母さんたちが非常に多いです。それで、子育てしてきている地域のお母さん、おばあちゃんの話を知りたい、あるいは交流を望む声というのが非常に多いです。子供たちを持っている親もそうですし、シニア世代の皆さんも多世代交流というものを非常に望んでいる声というのは、実は総合計画を作っていく中で、各区で無作為抽出で選ばれた方々からの多くの意見で、多世代交流に対する期待というものが多かったというのが特徴だったと思います。それに基づいてこれから川崎も多世代交流をどうやって増やしていくかということですが、例えばモデル事業として今年始めていますが、老人いこいの家は高齢者の施設、こども文化センターは子供だけというのをなるべく交流しようということです。こども文化センターと老人いこいの家が合築されている所が市内で何か所かあります。そこは合築されていても二つに分離されていたんです。全然交流がない。ここをやっぴり混ぜていこうという取組を今、モデル的に始めたところです。こういったことが成功すれば、もっと他のところに横展開していけると思っています。

例えば、子供とお年寄りの関係でいえば、すぐそこにできた特養ホームの5階部分に保育所を整備する形で合築することになりました。川崎区でも新たな計画がありまして、これは民間主導ですが、高齢者施設と子供施設を合築することになっています。

それから今取り組んでいる地域の寺子屋というものを、今年は各区に3か所ずつにしていく計画です。小学校中学校で放課後に子供たちに教える地域の寺子屋先生、シニア世代の皆さんを中心に知識や経験を持っている人たちが子供たちを育てる、教える、というのをやっています。そのアンケート結果を見ましたら、子供たちからも親からも非常に良かったと言っていますし、シニア世代の皆さんも子供と交流できて非常に良かったと言っています。これは学校という一つの核になるところからできていますが、もっともっと展開していかなければいけないと思っています。

世代間でばらばらになっているというのは、教育の面でも福祉の面でも防災の面でも駄目なんですね。多世代が繋がっていくというのをいかに誘導していくかというのをこれからやっていかなければいけないと思っています。

坂井さん】せっかく時間が余ったのですから、今日ここにいる方がそれぞれの方に、こういうのどうだい、みたいなご意見があったら、行政側がお答えになるだけではなくて、区民側でお答えできることがあったらお答えしてもいいなと思いますけれど。御意見があったら一回り、一言ずついかがでしょう。

市長】いい提案だとお思います。時間を決めてやりましょうか。15分くらいで。もしご意見があれば、あるいはそれぞれの横で御意見があればお願いします。

上杉さん】放射能の話ですが、うちのマンションで福島に実家のある方がいて、実家からカ

ウンターを持ってきて調べたらずいぶん高いという話がありまして、うちの自治会もこれはたいへんだということで。僕は博学ではないのでよくわかりませんが、何の単位か、0.2以上出たら除染の対象になる、という話を聞いて調べたんです。そうしたら、やはり放射能ですから空気中に漂っているみたいですね。ですから吹き溜まりのところは確かに出る。でもそれは一瞬のことであって、ずっとそこに留まっているわけではない。あんまり放射能のことを気にしてしまったら、たぶん日本国中住めなくなる。多少のことはこの地球上に住んでいる限りしょうがないと思っています。それを大袈裟に騒ぎ立てる方もいらっしやる。これはしょうがないですね、感情の問題ですから。でも実際に調べてみると、さっき極端なところがあったと聞きましたが、僕も近くのところを調べましたけれども、それほど多くはないです、と僕は考えています。調べるのは当然ですから、あちこち調べていただいて、その方が皆さん理解しやすいので、それを広報して皆さんに安心していただけるようにすればいいのではないかと思います。

いろんな意味で、いろんな事で大袈裟に騒ぎ立てる方も大勢いらっしやることは事実ですから、そのあたりも考慮しながらやっていただきたいと思います。

坂井さん】スーパー堤防について、皆さんあまりご存じないというか認識がないと思うんですが、スーパー堤防と堤防は役割が違うんですね。堤防は川に中の水が出てこないように止めるもの、スーパー堤防は、その周りじゅうがものすごく低い土地であって、そこに水が来た場合に逃げる命山なんです。ですから、そこにたくさんの方がより安全に逃げられる場所を国として整備する、それがスーパー堤防なんです。

ですから、江戸川区の場合は、こんなやわっちいものの上に住めるかって言った人もいたみたいですが、川崎の場合は、学校を上に乗っけたら、お前たちだけ助かるのかとか、そこから水を俺たちの所に流すのかとか言った人がいたらしいんですが、そういうものではなくて、その土地の唯一、一番安全な所を確保するためにたいへんなお金を掛けて整備するものですから、必ずしも連続している必要はなく、命山として皆さんがそこを抛り所として、水が来た時に逃げる所がなかった時にそこに行くんだという目印ですので、スーパー堤防を大事にしていきたい。

そこに高い建物を建てるというのは杭を打つことによって堤防の強化という機能も多分持っていると思いますので、花火が見えなくなるというのも、それもそうなんです、私の家も全く見えませんが、励ましにはなっていないですが、頑張りましょう。

上杉さん】今の洪水のことですが、僕も区役所の危機管理室に行って、この間と同じようなことが多摩川で起きたらどうなのって聞いたんですよ。ところが、分からないんですね、今のところは。ですから、どの辺のところか危険かということを確認していただきたい。対策を立てるのはその先ですからね。明日大雨が降るかもしれないので、この辺が危険だということは精査していただけるとありがたいと思います。

(3) まとめ

市長】どうもありがとうございました。冒頭申し上げましたように、色々な機会を通じて、川崎市は大きいものですから、市長を見たこともないし話もしたこともないし、というようなことをなるべく解消していこうと思っています。各区によっていろいろな違うテーマがあるので、それは私にとっても勉強になりますし、また、直接伺うという大変いい機会だと思っていますので、これからも毎月各区を回っていきますので是非また参加していただければと思います。今日は本当にありがとうございました。